



平成20年10月31日

各位

会社名 みずほ信託銀行株式会社
 代表者名 取締役社長 野中 隆史
 コード番号 8404 東証一部・大証一部

当社の親会社 株式会社みずほフィナンシャルグループ
 代表者名 取締役社長 前田 晃伸
 コード番号 8411 東証一部・大証一部

平成21年3月期第2四半期累計期間および通期の業績予想(連結・単体)の修正

平成21年3月期第2四半期累計期間(平成20年4月1日～平成20年9月30日)および通期の業績予想(連結・単体)について、下記のとおり修正します。

記

1. 平成21年3月期 業績予想の修正

(1) 平成21年3月期第2四半期累計期間(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(単位:億円)

	連結			単体		
	経常 収益	経常 利益	中間 純利益	経常 収益	経常 利益	中間 純利益
前回予想(A)(※1)	1,200	165	90	1,050	170	110
今回修正予想(B)	1,200	50	45	1,020	40	35
増減額(B-A)	±0	△115	△45	△30	△130	△75
増減率	±0.0%	△69.6%	△50.0%	△2.8%	△76.4%	△68.1%

(※1) 平成20年9月16日に発表したもの

(2) 通期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位:億円)

	連結			単体		
	経常 収益	経常 利益	当期 純利益	経常 収益	経常 利益	当期 純利益
前回予想(A)(※2)	2,500	710	550	2,200	670	550
今回修正予想(B)	2,350	350	200	2,050	335	200
増減額(B-A)	△150	△360	△350	△150	△335	△350
増減率	△6.0%	△50.7%	△63.6%	△6.8%	△50.0%	△63.6%

(※2) 平成20年5月15日に発表したもの

2. 修正の理由

第2四半期累計期間における当社連結・単体の経常利益および中間純利益につきまして、実質業務純益(信託勘定償却前・一般貸倒引当金繰入前業務純益)が減少する見込みであることなどに伴い、前回予想を下方修正するものです。

通期の業績予想につきましては、第2四半期累計期間の業績推移に沿って見直したものであります。

- ・本発表資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。
- ・また、本発表資料内の記載は投資勧誘を目的として作成されたものではなく、日本国内外を問わず証券の募集を行うものではありません。

【参考資料】

平成21年3月期決算の業績予想<単体>の概要

1. 第2四半期累計期間（平成20年4月1日～平成20年9月30日）

（単位：億円）

	前回予想（20年9月） (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)
実質業務純益 <※>	340	240	△100
経常利益	170	40	△130
中間純利益	110	35	△75

株式等損益	△40
与信関係費用（△）	90

<※>信託勘定償却前・一般貸倒引当金繰入前業務純益。また前回予想値は20年5月の期初予想値

2. 通期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

（単位：億円）

	前回予想（20年5月） (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)
実質業務純益	800	600	△200
経常利益	670	335	△335
当期純利益	550	200	△350

株式等損益	△55		
与信関係費用（△）	50	150	100

- ◇ 実質業務純益は、財管部門の粗利益の減収などにより、第2四半期で240億円程度、通期で600億円程度となる見込みです。
- ◇ 株式等損益は、株式相場の大幅な下落に伴う減損処理等により、第2四半期で△40億円程度、通期で△55億円程度となる見込みです。
- ◇ 与信関係費用は、Lehman Brothers Holdings Inc. 向け与信に関連する費用の発生などに伴い、第2四半期で90億円程度、通期で150億円程度となる見込みです。
- ◇ 当期（中間）純利益は、上記の要因などにより、第2四半期で35億円程度、通期で200億円程度となる見込みです。

以上